

KAIKE・PRESS

#14 2023/may

新たに見えてきた皆生温泉の可能性と課題

皆生温泉の海や浜辺・温泉・空き土地など、様々な要素をもつと有効活用して、暮らす人・訪れた人、皆が心地いいまちになるよう、企画・実践に取り組んでいる『皆生温泉エリア経営実行委員会』。

令和4年度の様々な事業を終え、去る3月18日(土)に米子市観光センターで報告会を行いました。開会挨拶に統じて、まずは実行委員会の伊坂会長から、令和4年度の事業報告として、低未利用地活用の社会実験『ぐるぐるかいけ』の報告や、空き不動産活用促進のための『空



令和4年度の皆生温泉エリア経営実行委員会を終えて

特集



『妄想模型』を前に、皆生のまちの成り立ちと皆生のこれからを語る、株式会社設計領域 代表取締役 吉谷崇 氏。



皆生温泉街の『妄想模型』。

事業報告の他には、多様な侧面から見た話題提供をしていただきました。デジタル分析の専門家からは、令和4年度に実行委員会で実施した住民アンケート調査結果を基に分析頂きました。その結果、カイケプレスやぐるぐるかいけなどの認知度上昇が顕著。

ビックデータ分析では、コロナ禍の緩和で宿泊客数が少しずつ戻っている現状や、地元の方々の皆生

温泉来街頻度に伸びしろが残っているという課題もわかり、皆生温泉の現状とこれから活かすべき魅力などが見えてきました。

様々な視点からこれからの皆生温泉を考える

事業報告の他には、多様な侧面から見た話題提供をしていただきました。デジタル分析の専門家からは、令和4年度に実行委員会で実施した住民アンケート調査結果を基に分析頂きました。その結果、カイケプレスやぐるぐるかいけなどの認知度上昇が顕著。

ビックデータ分析では、コロナ禍の緩和で宿泊客数が少しずつ戻っている現状や、地元の方々の皆生

温泉来街頻度に伸びしろが残っているという課題もわかり、皆生温泉の現状とこれから活かすべき魅力などが見えてきました。



住民アンケート調査結果を基にした分析報告をしていただいた、神戸市最高デジタル責任者補佐官/兵庫大学教授 宮崎光世氏。

素をもつと有効活用して、暮らす人・訪れた人、皆が心地いいまちになるよう、企画・実践に取り組んでいる『皆生温泉エリア経営実行委員会』。

お店が新たに開店しました。また、駐車場問題解決のため『akippa登録推進』では日帰り観光に使える駐車場が新たに10台できることなど、様々な実績が報告されました。

また、「これら事業を令和5年度以降も続けていくためには、人・財源が課題。役割分担と財源を検討していく」と、意気込みを新たにしました。

米子市観光センター2Fで開催された報告会には大変多くの方に来ていただきました。

皆生温泉のこれからを伝えるメディア

KAIKE・PRESS

#14 2023/may

官民の境界線を越えた ここちいい居場所“増”

2021年度、情緒ある景観の創出・統一を目的として3件の宿泊施設の海側ファサードを改修。いずれも、官民境界線をまたぎ、心地の良い「居場所」づくりを目指しました。また、2022年度には遊歩道照明も刷新され、夕日を眺める、おしゃべりをするなど、多様な活動が起こりはじめています。



これまで ?ヶ所

現在 少なくとも3ヶ所以上(2023年3月現在)

※宿泊施設のファサード改修だけでなく、照明刷新により歩いて・座つてここちいい場所がそこそこに増えています。

- ・遊歩道照明刷新により海岸遊歩道が落ち着いた空間へ!
- ・宿泊施設のファサード改修(皆生グランドホテル天水:ベンチ、皆生シーサイドホテル 海の四季:ウッドデッキ、湯喜望 白扇:ウッドデッキ)
- ・皆生菊乃屋照明刷新
- ・皆生つるや照明刷新

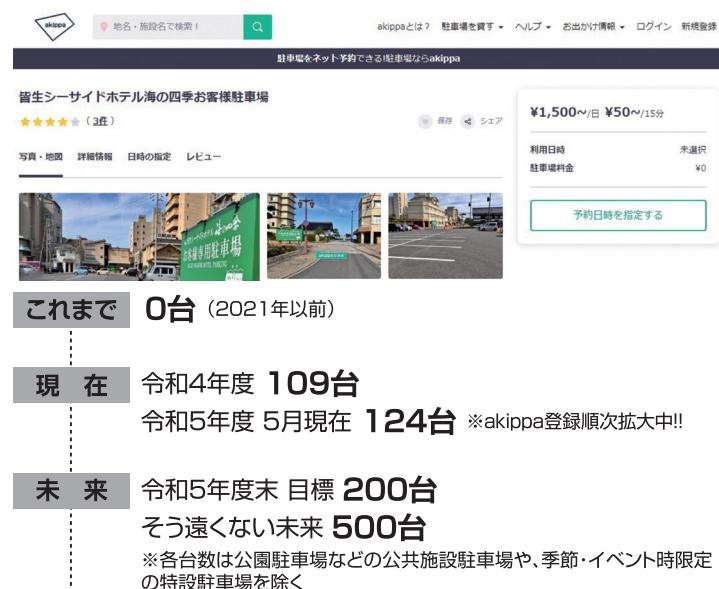
未来 令和5年度 エリア内9事業者が日帰り客の方の居場所を少しづつ形づくる予定

特集

これまでと、今と、未来 数字で見る皆生エリア経営実行委員会

日帰り観光に使用できる駐車場“増”

皆生温泉のまちは、大規模な宿泊施設も多いため、各施設駐車場は大型のものも多くありました。が、日帰り観光に利用できるような駐車場はありませんでした。akippaという駐車場予約サービスへの登録推進を行い、109台もの日帰り観光にも利用できる駐車場ができました。



去る3月18日(土)に米子市観光センターで行われた報告会でも見えてきたように、エリア経営実行委員会(以下、実行委員会)を含む皆生温泉の様々な方々の努力により「皆生のまちの様子」は、いろいろと変わりつつあります。もちろんこれからも、地域のみなさんと一緒にあって、よりよいまちへどんどん変化をしていきましょう!!現時点での成果と目標をお伝えします!!

皆生温泉のまちづくりに 関わる機会“増”

2021年度から実行委員会の主催でワークショップやエリアデザインスクール等を開催し、プラットにまちづくりに関われる機会を増やしています。自治会関係者、民間事業者、行政関係者などがプラットな立場で、皆生温泉のありたい姿について意見を出しあったり、企画したり、実験したり…機会が確実に増えています。



これまで ?回

※明確に機会が作られた回数は確認できません。

現在 6件以上(令和4年度)

※ペチャくちゃかいけ、カイケエリアデザインスクールなど様々ななかたちを行っています。

空き不動産への出店“増”



空き土地や空き店舗・空き家が、以前の皆生温泉に比べて目立ってきていたのは、みなさんご承知の通りと思います。実行委員会では『空き物件見学ツアー』や『お試し出店』の機会づくりを行うなどして、様々な出店誘致活動を行っています。

これまで 0件

現在 令和4年度 9件

※きないや跡地やヴィラ皆生一番館1階など様々な出店が生まれました。

未来 令和5年度末 目標 3案件 推進中

※今現在も相談・商談が生まれています

松林や砂浜、公園などの 有効活用実験“増”

皆生温泉の特徴である白砂青松。景観や空気感を愉しめる空間は、松林・砂浜・公園などそこここにあります。が、それらのすべてが有効活用されているかというと疑問です。そこで各所をより心地よく使う実験を増やしています。結果、新たな出店や催し増加や、参加市民が巡り歩く事で健康増進へ寄与するなど、副次的効果も見え始めています。



このように皆生温泉のまちを、もっともっとここちよくしていくための動き…少しづつですが成果も出はじめています。みんなでかかわり、よりまちへ、よりよい暮らしへ、していきましょう!!